

## アルファベット表記の仕方 服部崇

「短歌研究」五月号は「一冊丸ごと短歌作品」として、毎月の連載などは載せずに、三百人の短歌作品を掲載した。昨年の五月号に続き、二回目の企画である。今回のテーマは「デスタンス」。昨年来、新型コロナウイルス感染症の拡大を防ぐため、「密」を避け、人との「距離」を取らざるを得ない事態が続いている。こうした私たちが今直面している事態を短歌に残してほしい編集者の意図はよくわかる。とはいえ、今回取り上げたいのは、そのことではなく、「短歌研究」五月号に掲載されている短歌において使用されている英単語のアルファベット表記の問題である。

・ distance は並木の静けさで朝のカラスが鳴き交わしたり

永田紅

・ distance 並び替えれば dancing などとぶこともなく、踊ら  
ない 田口綾子

テーマに沿って「デスタンス」を英語表記にした歌がいくつも見られた。永田の歌は、単語の distance を分解してハイフン( )でつなぐ工夫をしている。接頭辞、語幹、接尾辞のそれぞれの意味をルビにして、うまい。京都の朝の様子がよく出ている。田口の歌は単語のアルファベットの並び替え(実際はそうはなっていないが)というアイデアを盛り込んだ。distance はこのほか五十嵐順子、久保田幸枝 (social-distance を含む) が用いている。

日置俊次は DISTANCE (半角、大文字) を用いている。武下奈天子は distant を用いている。渡辺幸一は「Keep distance」と一文で用いている。

・ Zoom では話さぬこゝの二三つ距離の溪間にてあわれ消えゆく

富田睦子

・ Zoom 越しに監視するユタのため息が石垣島の夜気を揺らせり

井上公人

私たちはすっかりオンライン会議ツールの Zoom を使う生活になっているが、Zoom では話しづらいこともある。監視もオンラインで行うらしい。富田は半角の Zoom、笹は全角の Zoom を用いている。半角を用いるか全角を用いるかで単語の強調度合いが異なるように思われる。半角の Zoom は、富田のほか、英保志郎、川谷ふじのも用いている。

・ vaccine のなかに雄牛のいることの、娘の痒みさえもとおくて

大松達知

・ 横たわり Kindle 閉じる 目を閉じる 想えば心に雨は滲んで

野口あや子

・ 広々と海の遠くを霞ませて Hello, Goodbye. 春の雪ふる

北山あさひ

最後に、アルファベット表記を用いる際にルビを振るべきか振るべきでないかという問題を取り上げる。大松はワクチンにルビを振らなかつた。ワクチンはラテン語の雌牛 (vacca) に由来することの意味をゆっくりと考えさせたかっただろう。野口の Kindle はそのままアルファベット表記の方がわかりやすい人も多いかもしれない。北山の用いた英単語は私でもわかる。